

2024年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2024年度のまとめ

和白干潟を守る会の環境保全活動は、36年を過ぎました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。2024年度は、11月に開催した和白干潟まつりは、暖かくて約520人の参加があり、楽しく交流ができ大成功でした。12月に開催した「和白干潟の自然観察ガイド講習会」は「伝えよう、和白干潟の鳥のこと！」のテーマで楽しく学習できました。鳥類調査とクリーン作戦は無事に続けることができました。クリーン作戦には企業や学生が継続して多く参加されました。和白干潟の自然観察会は、コロナの頃から減っています。また観察会に来てくれる学校や保育所などが多くなることを願っています。夏の猛暑が続き、アオサの発生が少なかったです。

守る会の役員や事務局が高齢化しており、会員が増えて新しい会員や若い会員が役員や事務局を務めてくれることを願っています。ラムサール条約に登録されるためには、国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。和白干潟はまだ国指定鳥獣保護区の普通地区のままです。2023年7月に「和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書を福岡市長に提出し、8月に市長の回答をいただきましたが、ラムサール条約登録についての回答が無く、9月に再度要望書を提出しました。10月に再回答書が届きましたが、「ラムサール条約登録は将来的な課題である」との回答でした。今後も和白干潟がラムサール条約に登録されるように活動を続けていきたいと思います。2025年度には、環境省にも働きかけができればと思います。

守る会が呼びかけた和白干潟の集水域の保全活動「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けています。2024年1月に新春講演会「唐原川の植物と生きもの」を行い、5月には唐原川の観察会「唐原川を歩こう」、9月には「唐原川お掃除し隊」を行いました。

和白干潟を守る会の活動への企業や学校の支援としては、「クリーン作戦」への参加や観察会の企画、寄付等があります。九州産業大学は特別講義を企画され、クリーン作戦にも継続的に参加頂き、多彩に協力いただきました。あいおいニッセイ同和損保やMS&ADホールディングス、ユネスコ協会連盟やダンロップグループなどは、和白干潟の観察会とクリーン作戦を企画し、寄付もいただきました。イオン環境財団より助成金をいただきました。

2024年度もよく活動できたと思います。今冬は、ミヤコドリは35羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも最大16羽を確認しています。ツクシガモは最大123羽を確認しました。シギやチドリが少し増えました。ハマシギが244羽、ミユビシギが18羽をカウントしました。和白干潟がもっともっと回復して欲しいと願っています。

2025年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの力で未来の人たちに渡したいと思います。

和白干潟を守る会 代表 山本 廣子

活動方針に基づく報告とまとめ

和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

1. 和白干潟観察会

2024年度は、新型コロナウイルス感染症は5類に移行して活動の制限がなくなったが、観察会は少なかった。1月に観察会案内状の送付を行い、観察会グループミーティングは、12月に行った。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2024年度中(1月～12月)の和白干潟自然観察会は、年間5回で、延べ215名の参加があった。保育園では、香椎保育所1回47名、学校関係からの依頼では、小学校1回(和白小学校)95名であった。

年度	団体区分	実施回数	延べ人員
2024	保育園	1	47
	小学校	1	95
	中学校	0	0
	高校	0	0
	大学	0	0
	一般	3	73
	合計	5	215

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

12月22日(日)日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ元レンジャーの中村聡氏を講師に招き、「伝えよう、和白干潟の鳥のこと!」と題して第26期和白干潟の自然観察会ガイド講習会が実施され、11人の参加があった。講義では、案内人は知識を披露するのではなく、参加者の観察のお手伝いをするものであり、いかに参加者の関心を引き出すかが大切であることを学んだ。

室内講義の後は、海の広場に行き、ミヤコドリやツクシガモ、オオバンなどの干潟の鳥達の色んな仕草を観察した。

3. 和白干潟のクリーン作戦と自然観察(毎月第4土曜日)

毎月第4土曜日午後3時から5時まで(但し、真夏と真冬は時間を短縮した)海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や砂質調査を実施した。

定例のクリーン作戦は、年間11回、3月は悪天のため中止した。特に今年は九産大のゼミや個人、企業からの参加が多かった。定例のクリーン作戦では、参加者は370名、その内守る会人数は139

年度	活動項目	回数	延べ人数(人)	ゴミの量(袋)
2023	クリーン作戦	10	287	497
	その他	8	493	238
	合計	18	780	735
2024	クリーン作戦	11	370	603
	その他	4	278	60
	合計	15	648	663

増加割合(%)	83.3%	83.1%	90.2%
---------	-------	-------	-------

名だった。その他は278名だった。全体では648名の参加があった。ゴミの内訳は、可燃ごみ:573袋、不燃ごみ:30袋で、合計で603袋だった。粗大ゴミでは、今年もタイヤ、浮き、寝具、電化製品、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、企業や九州産業大学生などの参加があった。

- ・4月27日(土)のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」参加
- ・6月22日(土)のクリーン作戦はラブアースクリーンアップ参加で実施した。
- ・9月28日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加し、ゴミデータ調査を実施。ゴミ調査には九州産業大学宗像ゼミの学生や企業からの協力があった。ゴミでは依然プラスチック類のゴミが多かった。

4. 第36回和白干潟まつり

第36回和白干潟まつりを11月17日、海の広場にて開催した。まつりも36回を迎えると、何故守る会とグリーンコープ東支部の共催なのか？知っている人もほとんどいなくなったので、36年前からの経緯を8月の第1回実行委員会で説明してからまつりの準備に入った。

11月17日のまつり当日は、曇り時々晴れ一時小雨と不安定な天気だったが、約520名の参加者があり、子ども達の参加も多かった。

開会式では今年もラムサール宣言を力強く宣言し、参加者全員で採択した。野鳥観察(50名)、自然遊び(40名)、植物観察(17名)、干潟の生き物観察(28名)は親子連れの参加で賑わった。大潮の影響でいつもの場所での観察は出来なかったが、講師の方が工夫して楽しい観察会にしてくださった。ステージ企画も6グループがまつりを盛り上げてくれたが、鳥を驚かせないように音量を下げていたので、出店ブース内の人には聞こえ難かった。人にも鳥にも優しいマイクの購入の検討が必要。

今年の出店者は去年より減り14店だったが、弁当やパンなどの飲食物、ハンドメイド雑貨、子ども達の手作りゲームなど、どの店も賑わっていた。マリワールドのタッチプールは今年も大人気だったが、西区で発生した鳥インフルエンザにより、水族館は厳戒態勢の中での出展をされた。来期も鳥インフルエンザが発生した場合は、直前キャンセルもあるとの事。前日の準備から当日の片付けまで、スケジュール通りに進めることができ、全員で協力して楽しいまつりを行うことが出来た。

収支は、協賛金、売り上げ、カンパ、まつり事業費を合わせた収入132,283円に対し、経費支出111,885円。20,398円の黒字決算となった。

2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

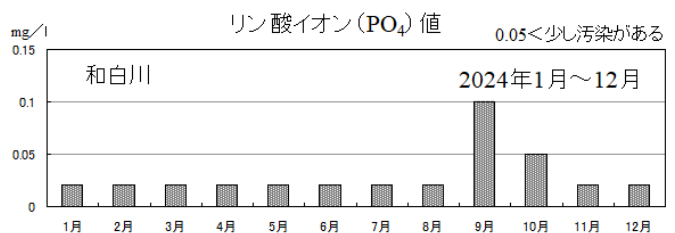
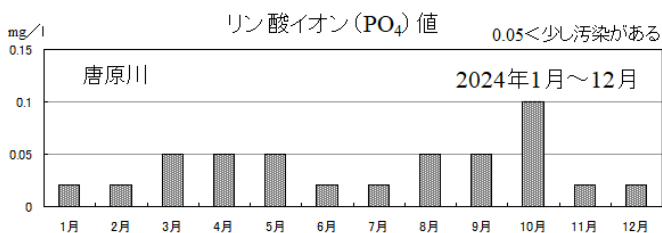
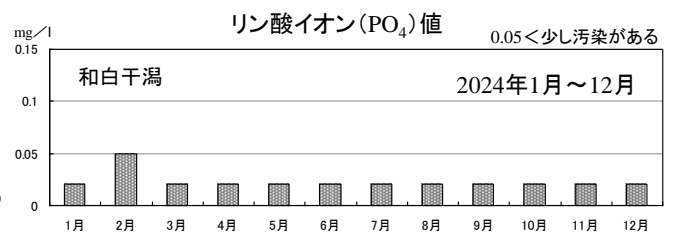
5. 調査

調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関しては唐原川と和白川を調査地点に加えて調査を行っている。

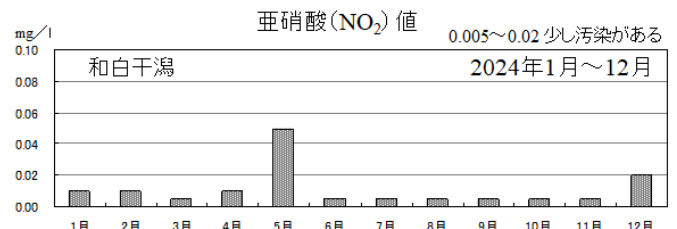
(1) 水質調査(毎月1回実施)

①リン酸イオン値(PO_4)は海水中のリンの状態を示すもので0.05以下は「きれいな水」、0.05~0.2は「少し汚染がある」状態であることを示す。和白干潟では、年間を通して0.05以下であり、「きれいな水」の状態であった。

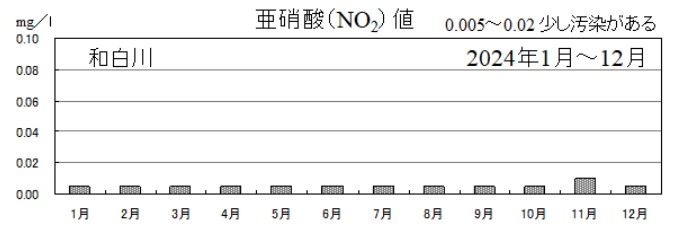
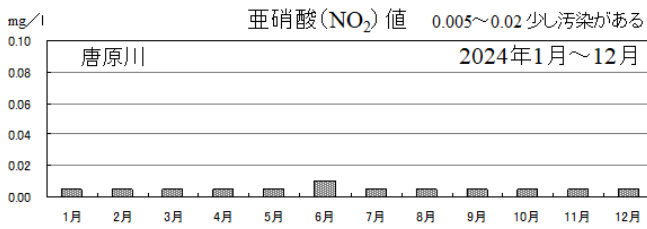
唐原川は10月が0.1で「少し汚染がある」状態、その他の月は、年間を通して0.05以下であった。和白川は9月が0.1で「少し汚染がある」状態で、その他の月は0.05以下であった。



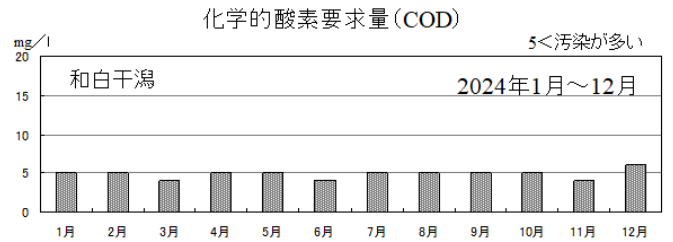
②亜硝酸値(NO_2)は海水の窒素の状態を示すもので、0.005以下は「きれいな水」、0.005~0.02は「少し汚染がある」、0.02~0.05は「汚染がある」状態を示す。



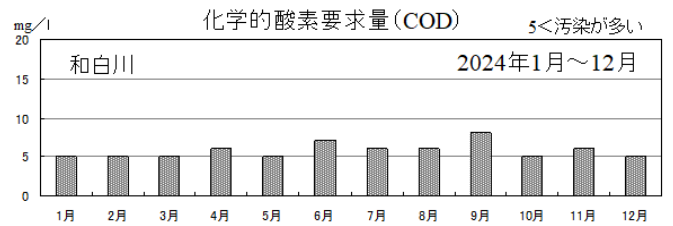
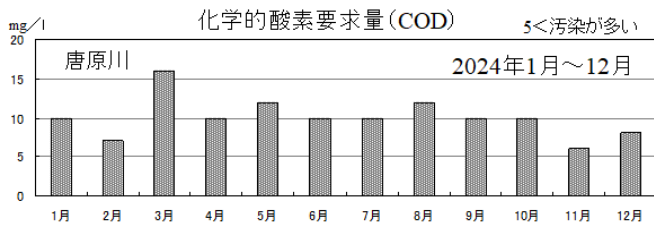
- ・和白白濁は5月が0.05で「汚染がある」状態のほかは、「きれいな水」の状態であった。
- ・唐原川は6月が0.01で「少し汚染がある」状態で、その他の月は、「きれいな水」の状態であった。
- ・和白白濁は11月が0.01で「少し汚染がある」状態、その他の月は「きれいな水」の状態であった。



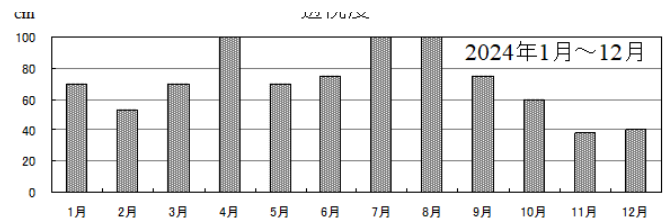
③化学的酸素要求量(COD)は水の汚れ具合を示すもので、2以下は「きれいな水」、2~5は「汚染がある」状態、5~10を「汚染が多い」としている。



- ・和白白濁では12月が6で「汚染が多い」状態、その他の月は、年間を通して5以下であり、5を下回る月が3回あり、「汚染がある」状態であるが、水質は改善傾向にある。
- ・唐原川や和白白濁では年に何度か5を越えることがあり、和白白濁に比べると汚れが多い。和白白濁と唐原川を比べると唐原川の方が汚れが多い。



④透視度については、2015年度からは透視度計の100cmまで見えることが多く改善傾向にある。しかし、2022年度は平均で約40cmと悪化したが2023年度は平均65cm、2024年度は70cmと改善している。

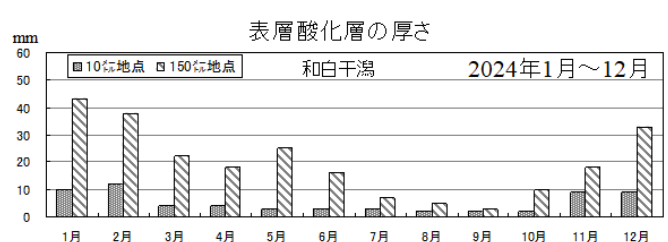
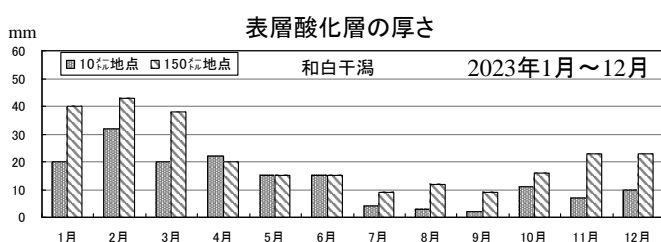


(2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、30種類のゴミが回収された。収集したゴミの中で、特に多かったのは「飲料缶」で、その次に多かったのは今、社会で問題となっているプラスチックゴミの「ペットボトル」だった。調査には九産大宗像ゼミの方々協力があった。調査データは干潟通信やホームページで公表していく。

(3) 砂質調査

和白白濁・海の広場前10㍍地点と150㍍沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。



上のグラフは、2023年度と2024年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが両年度とも浜辺側の表層酸化層の厚さが薄い。2024年度は2023年度と同じような傾向にある。

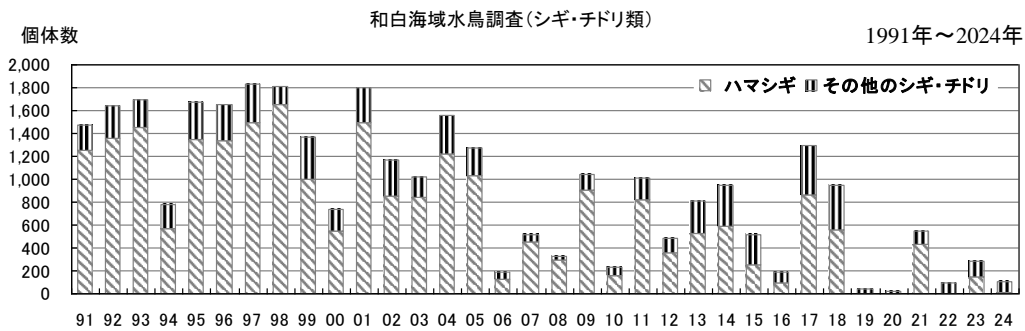
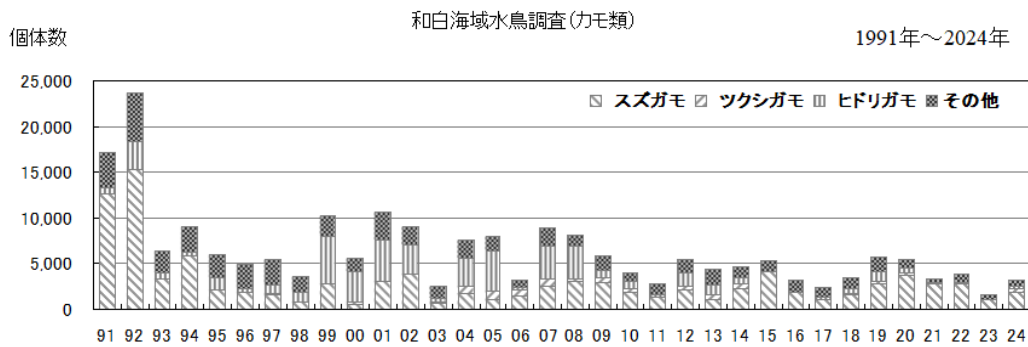
(4) 鳥類調査

2024年度も新型コロナウイルスなどの感染防止のために、調査員は集合せずに各調査ポイントに分かれて調査した。調査記録を写真とともに送ってもらい集計した。

鳥類調査では以下の調査に協力した。

① 1月 和白海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部）2024年1月9日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数の内、カモ類は前年の1,619羽より増加し3,197羽、最多の1992年の23,719羽と比べて約7分の1だった。シギ・チドリ類は前年の288羽より減少し110羽。ハマシギは15羽、シロチドリが57羽だった。90年代の約1,600羽と比べて約15分の1に減少した。調査参加者は6名だった。



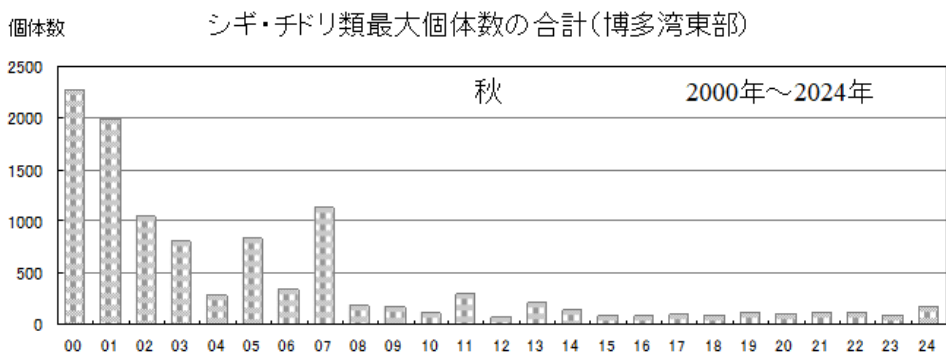
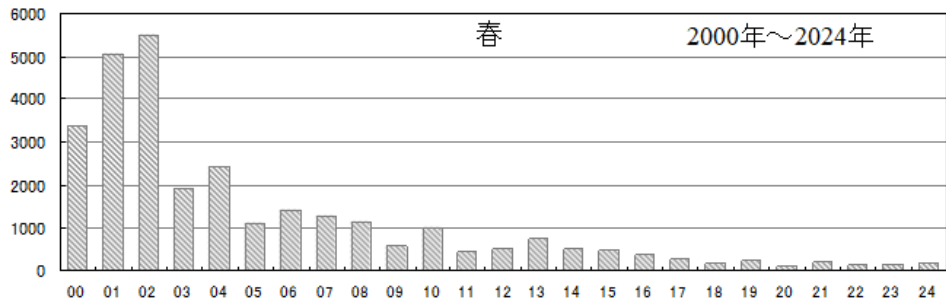
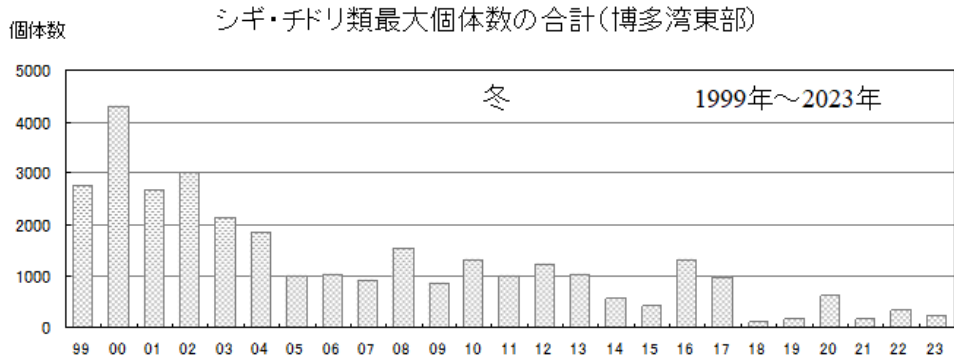
② 環境省モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ調査（環境省・NPO 法人バードリサーチ）

冬期：2023年12月、2024年1～2月 今津と博多湾東部で各3回実施

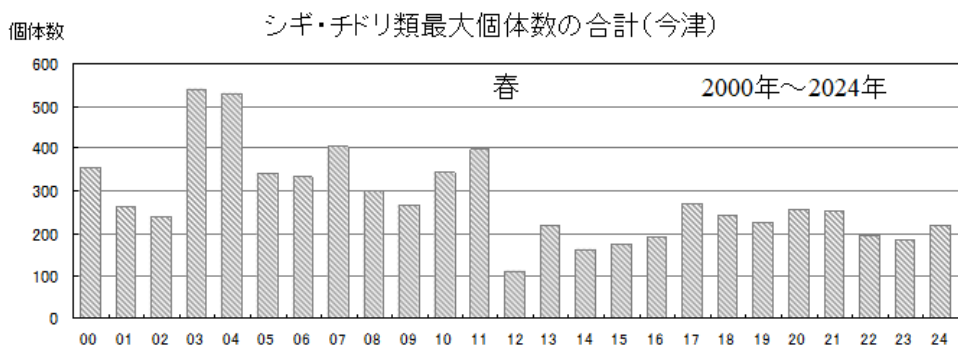
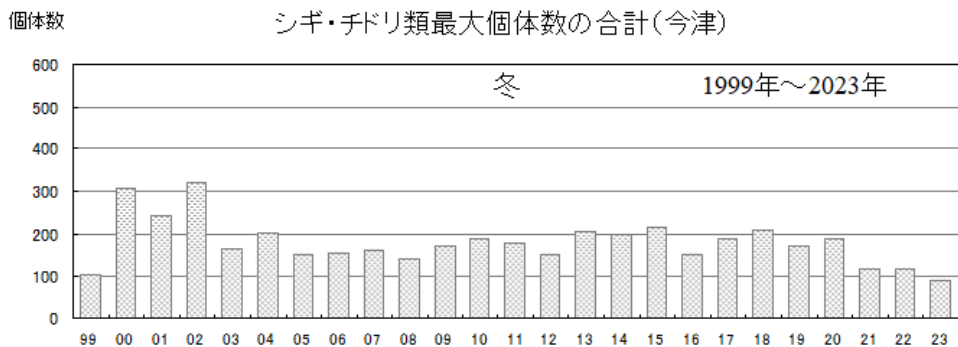
春期：2024年4月～5月 今津と博多湾東部で各3回実施

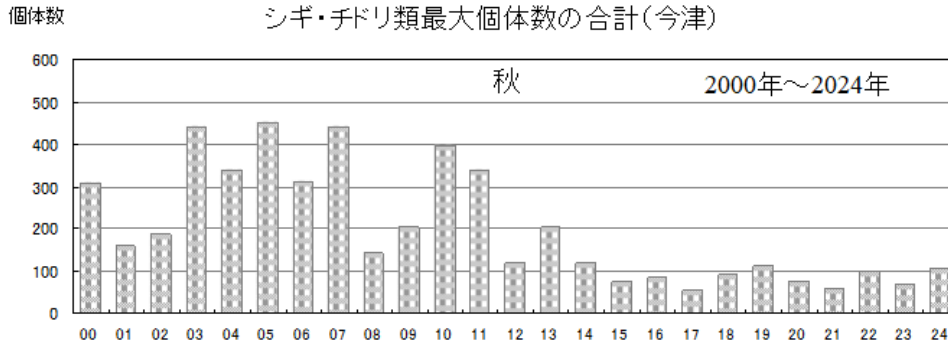
秋期：2024年8月～9月 今津と博多湾東部で各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2023年度冬期は2000年の4,300羽から219羽に減少し（昨年347羽）、2024年春期は2002年の5,509羽から159羽に減少（昨年142羽）。2024年秋期は2000年の2,271羽から168羽に減少した（昨年90羽）。希少種では、冬期と春期と秋期にクロツラヘラサギは最大26羽（昨年14羽）、ヘラサギは最大7羽（昨年4羽）、ツクシガモ258羽（昨年118羽）、ズグロカモメ1羽（昨年0羽）を確認した。



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2023年度冬期は2002年の319羽から**90羽**に減少し（昨年118羽）、2024年春期は2003年の538羽から**219羽**に減少（昨年187羽）、2024年秋期は2005年の450羽から**104羽**へ減少（昨年69羽）。希少種では、冬期と春期と秋期にクロツラヘラサギは最大**8羽**（昨年12羽）、ヘラサギは最大**7羽**（昨年8羽）、ツクシガモ**82羽**（昨年148羽）、ズグロカモメ**12羽**（昨年8羽）





(※博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！)

この23年で博多湾東部の鳥類は大きく減少した。2016年と2017年冬期のシギ・チドリの個体数が少し増加したが2018年春期以降はまた減少し2020年冬期はまた少し回復したが、少ない状態が続いている。

今津のシギ・チドリは減少状態であるが、博多湾東部に比べて減少が少ない。博多湾東部は博多湾の人工島などの開発の影響を大きく受けており、それに比べて今津は開発の影響が少ないと思われる。

2024年の鳥類調査参加者は、毎回10名～12名、延べ93名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当者が高齢化し、調査員が不足している。車の運転者も不足しており、調査協力者を求めている。

※ミヤコドリは2024年9/27に4羽初認、10/14に25羽、11/17に35羽(過去最大数)を観察し、越冬している。(昨年度最大数記録28羽) クロツラヘラサギは2024年9/25に1羽初認、10/13に7羽、11/23に16羽を観察(最大数)、(昨年度最大数31羽)その後も越冬している。ツクシガモは11/9に1羽(初認)、12/4に33羽、12/8に109羽、12/18に123羽(最大数)、以降も越冬している。(昨年度最大数記録231羽)

3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

6. ラムサール条約登録をめざし、行政、議会、市民に向けた活動に取り組む

第36回和白干潟まつりで、ラムサール宣言を表明する事が出来た。また、福岡市長・福岡県知事・環境大臣・環境省九州地方環境事務所野生生物課・環境省九州地方環境事務所福岡事務所所長宛に「第36回和白干潟まつりラムサール宣言」を送付した。

7. 福岡県・福岡市等の環境政策、公共事業に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める

(1) 福岡県・福岡市等の政策についての取り組み

① 「ラブアース・クリーンアップ2024」へ協賛金10,000円を振り込んだ。

(2) 福岡市との連携

① 「和白干潟保全のつどい」の定期開催

福岡市港湾空港局環境対策課や自然保護団体などと連携し、「和白干潟保全のつどい」を毎月1回定期的に開催している。本年度は、7月に「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」、9月に「アオサのお掃除大作戦」（11月2日は雨天のため中止）、11月に「バードウォッチング in 和白干潟 2024」が開催された。

②「ラブアースクリーンアップ」

6月22日にラブアースクリーンアップ参加のクリーン作戦を行った。

8. 「山・川・海の流域会議」の他団体との流域連携について

1月の新春講演会は「唐原川の植物と生きもの」と題して、古野正章氏に講演していただいた。その後、各グループ・サークル（楽友会・立花山グリーンガイドの会・唐原川を考える会・和白干潟を守る会）の活動報告が行われた。2年連続で雨天中止となっていた、春の自然観察会「唐原川を歩こう」は、3年ぶりに晴天に恵まれ、19名の参加が有り盛況であった。また、講師として九州産業大学内田ゼミの学生と内田先生、古野先生にも参加いただき、有意義な観察会となった。例年以上に厳しい暑さの残る9月に決行した、第12回「唐原川お掃除し隊」は今回も無事終了したが、開催時期は考慮すべきであった。

9. スタッフの確保、活動への参加の強化について

ボランティア募集に力を入れ、気軽に参加できるようHPや通信、あすみんHPなどで情報提供を行っている。前年度に比べてクリーン作戦の参加人数は増加したが、自然観察会の参加人数は減少。そのため、延べ参加人数は前年度を下回る結果となった。新規個人会員は2名増加したが、退会者が5名いたため、会員数は前年度よりやや減少した。団体会員数も1団体減少した。

10. 広報の強化について

(1) 和白干潟通信・ホームページ・リーフレット類

① 干潟通信

和白干潟通信は6名で編集を行っている。1、4、7、10月にそれぞれ148、149、150、151号を作成し、5000部印刷し、発送や配布した。干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成金を受けて、ロータリー印刷（株）で印刷した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、公民館、大学、和白干潟付近の家庭、クリーン作戦や自然観察会参加者、ホテル、郵便局等。

② ホームページは、4名が分担し編集している。

③ 「クリーン作戦と自然観察のお知らせポスター」は、公民館、郵便局、周辺大学（福工大、九産大、福岡女子大、令和健康科学大学）、銀行、駅、コミセン和白、老人福祉センター（福岡100プラザ東）、スーパーなどにも掲示依頼している。

④ 年間スケジュール表1500枚を配布した。

(2) その他

① イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加

イオン香椎浜店で、毎月11日にボランティア団体支援のイエローレシート投函を呼びかけるキャンペーンに参加し17年目となった。レシートの買い上げ金額の1%相当額が団体に寄付され、4月には1年間のギフトカードの寄贈があった。新型コロナウイルス感染予防のため、しばらくの間、店頭活動が中止となっていたが、5類感染症移行に伴い昨年6月から店頭活動が再開になった。毎月、2名がローテーションで参加をしている。

1 1. 講演活動

山本代表が講演活動を行った。

10月 九州産業大学特別講義「和白干潟の自然を守ろう！」 22名の参加。講義資料を読んでミニッツペーパー（課題）提出数＝特別講義参加者数：98名

1 2. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟散歩」レストラン「花もも」にて（5/1～5/31）開催し、和白干潟のパンフレットや通信を配布した。
- ・ハマグリ調査に参加（静岡大学 佐藤氏より）
- ・アオサ回収によるアサリ資源保全の検証調査に参加（藤井氏より）
- ・クリーン作戦お知らせの掲載願いを新聞4社に送付した。
- ・イオン環境財団 SNS 投稿申請書に「和白干潟まつり参加者募集」「守る会会員募集」「クリーン作戦案内」を書きこみポスターや写真データとともに送付した。

1 3. 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギ、ツクシガモの飛来について各新聞社に情報提供した。
 - 1/24 西日本新聞にミヤコドリの写真記事が掲載された。
 - 5/2 西日本新聞にセイタカシギの写真記事が掲載された。
 - 5/25 JCOM からクリーン作戦時に取材を受けた。
 - 10/18 読売新聞にミヤコドリの写真記事が掲載された。
 - 10/24 西日本新聞にクロツラヘラサギの写真記事が掲載された。
 - 11/4 西日本新聞にミヤコドリの写真記事が掲載された。
 - 11/13 読売新聞に干潟まつりの記事が掲載された。
 - 11/14 西日本新聞に干潟まつりの記事が掲載された。
 - 11/16 毎日新聞に干潟まつりの記事が掲載された。
 - 12/12 FBSTV の天気予報でミヤコドリとツクシガモとクロツラヘラサギの様子が放映された。
 - 12/14 毎日新聞に自然ガイド講習会の記事が掲載された。

1 4. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

(1) 日本野鳥の会福岡支部

毎月1回「和白海岸探鳥会」に、お世話係で協力している。

(2) JAWAN、JEAN

- ① JAWAN 通信 147号にクリーン作戦の記事が掲載された
- ② 6月15日 JAWAN 総会に出席（山本代表）
- ③ JEAN「春のクリーンアップ」と「国際海岸クリーンアップ」
4月27日、9月28日に参加。

(3) 日本自然保護協会

日本自然保護協会に和白干潟クリーン作戦の年間スケジュールを送り、毎回情報ナビに掲載された。

(4) グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部

第36回和白干潟まつりで共催した。

第1～3回干潟まつり実行委員会にも参加して頂いた。

(5) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」

- HP などへの情報提供を継続し、ボランティアに登録した学生などがクリーン作戦に参加している。
- (6) 蒲生を守る会とは 機関紙交流を続けている。
- (7) 「生物多様性のための 30by30 アライアンス」では、定期的に配信されるメールマガジンを共有している。

15. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

(1) 定例会議・総会

原則毎月第 4 土曜日に守る会の事務所で「定例会議」を開催。2 月は「総会」を開催し、同日に臨時定例会議を開催した。定例会議では会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は全員で意見交換して決定した。今年も一度も中止になることなく毎月開催された。3 月と 10 月の定例会議ではオブザーバー(計 3 名)の参加があった。出席者は平均で約 12 名だった。2 月は「総会」を開催し、1 年間の活動のまとめをした。

(2) 事務局体制と役割分担

守る会の象徴である「ミヤコドリ」を会鳥とし、その下に代表、役員、各イベントのまとめ役などの事務局メンバーが配置されている。この事務局体制は、会の活動を円滑に進めるために欠かせないものである。

会の活動においては、定例会議に出席している事務局メンバーができるだけ様々な活動を分担することにより、個々の負担が偏らないように配慮している。これにより、メンバー全員が積極的に参加でき、効率的に活動を進めることが出来る。

しかし、平日に行われる活動が多いため、参加できるメンバーが限られているのが現状で、この状況を打開するために、引き続き新規会員の勧誘に努めることが重要である。新しい会員を迎えることで、多様な視点や意見が取り入れられ、活動がさらに充実し、広がりを持つことが期待される。

(3) 助成

- ・イオン環境財団から助成を受けた。

(4) 寄付

- ① 日本ユネスコ協会連盟より応援金をいただいた。
- ② MS&AD インシュアランスグループホールディングス(株)より寄付金をいただいた。
- ③ イオン九州(株)より「幸せの黄色いレシートキャンペーン」でイオンギフトカードの寄付をいただいた。
- ④ 一般財団法人 未来 2016 より寄付金をいただいた。

あいおいニッセイ同和損保より寄付金をいただいた。

お菓子のアトリエカノンより寄付金をいただいた。

(5) 応募と受賞

応募は無し。

(6) 2024 年度末の新規会員

個人：2 名、団体：1 団体

(7) 2024 年度末会員数（新規会員含む）

個人会員：196 名 団体会員：12 団体

16. パンフレット類の在庫（2025 年 1 月現在）

- ・和白干潟を守る会リーフレット 2,096
- ・和白干潟の自然案内（和文） 1,221（次年度に増刷予定）
- ・環境教育シリーズⅠ（環境教育プログラム） 4,282
- ・環境教育シリーズⅡ（水鳥、底生生物、植物図鑑） 9,393

・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表	毎年印刷	
*和白干潟を守る会封筒	7,000	
・ラムサール条約と和白干潟	152	
・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会 20年のあゆみ		12
・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会 30年のあゆみ		1,011
・四季の和白干潟の自然Ⅰ	701	
・四季の和白干潟の自然Ⅱ	9,700	
・和白干潟の自然案内（英文）	483	
・環境教育シリーズⅡ（英文）	350	
・環境教育シリーズⅡ（韓文）	78	

17. その他

- ・海の中道海浜公園委託の鳥類調査に協力（毎月1回）4名
2024年12月には、海の中道海浜公園より和白干潟を守る会に感謝状とギフトカードを頂いた。